沖縄商工会議所創立50周年記念シンポジウム

特色生かして活性化を

ちゃあ～すが うちなぁ～　沖縄自立経済への道

沖縄商工会議所創立50周年記念・琉球新報社創刊110年記念の地域活性化シンポジウム「ちゃあーすがうちなぁー　沖縄自立経済への道」（主催・沖縄商工会議所、共催・琉球新報社）が15日、沖縄商工会議所ホールで開かれた。５人のパネリストを中心に沖縄市など中部地域の活性化について、活発な議論が交わされた。

中部振興で活発討論

上原　昭氏

沖縄市など中部地域の活性化などについて熱心な討論が繰り広げられたシンポジウム＝15日、沖縄商工会議所ホール

開　梨香氏

幸地　光英氏

識者5氏が幅広い提言

出席者

■パネリスト
真栄城守定氏（琉球大学教育学部教授）
富川　盛武氏（沖縄国際大学商経学部教授）
小濱　哲氏（名桜大学国際学部観光産業学科教授）
上原　昭氏（県企画開発部地域・離島振興局長）
開　梨香氏（有限会社開代表取締役）
■コーディネーター
幸地　光英氏（沖縄商工会議所専務理事）

真栄城　守定氏

富川　盛武氏

小濱　哲氏

「地域の熱意が大切」

バイオ誘致向け整備必要　上原
全てのカギは人とソフト　開
魅力のアピールが大切　真栄城
ウェルネスを主な産業に　富川
住民のための観光政策を　小濱

真栄城　アイルランドのような機能を集積した。EU諸国の中で二番目に高い国になった。ナンバーワンになりなくとも、わずか美浜と同じ大きさの区域で実現できることを考えないといけない。

日本で今、一番元気なのは沖縄だ。国からお金をもらってどうこうするのではなく、自分たちの知恵の中から、いろいろな仕組みを見出し、例えば官人の人材でもという形で生みだすのが重要なポイントになるだろう。それは経済だけでなく、他の分野でも当てはまる。

小濱　路面電車の計画では、泡瀬とのリンクを考えてはどうか。将来的には沖縄一とも国まで、リンクさせ、中心商店街と泡瀬をどう結びつけていくかも課題だ。本島東海岸の核として最も可能性が高いのは泡瀬だと思う。中心市街地を巻きこんだ東部海浜をつくり、それを本島全体にどう波及させるかのシナリオを、市民が県や国に対して提案するくらいの勢いが必要だ。

「子ども未来館」は、まずは市民が使いこなすことが必要だ。行政、民間の観光政策は、まずは地域住民のためにあるべきだ。納得する住みよい街をつくり、自分たちだけがいいと思うのではなく、その先に多くの人がお金を落とす形にはなかなか結びついていない。

その仕掛けとして、プロデューサー的要素を持っている人たちが集まって知恵を寄せ合うことも必要だ。

ムーンビーチにミュージックキャンプというのがあったが、沖縄市でもできると思う。路面電車の前にミニバスを走らせて、ホテルに案内する仕組みをつくるのもどうか。

上原　豊見城や糸満の埋め立ては、住宅地が供給剰で売れない。マリンタウンの西原、与那原も苦労し、沖縄市も非常に厳しいものはある。次の十年間を見据えたとき に、東海岸の開発をどうするかが、県の大きなテーマだと考えている。東上げることが必要だ。

富川　モノレールが中部、沖縄市に連結すると交通もスムーズになり、路面電車の話にも勢いがつく。路面電車はクリーンエネルギーを使うなど、特化したものを持ち、並行して自転車専用道路やクリーンカーの導入で「環境」というものを取り込むことができれば、その関係のプロジェクトや予算も引き込めるのではないか。

沖縄はアジアのパシフィッククロスロードという資源もあるが、なかなか現実のものにしてない。音楽や観光情報を中国や台湾に発信するべきではないか。フランスには、携帯電話に観光情報をとんでん載せていくという戦略の事例もある。情報を発信する戦略をとっていけば、外国の観光客も引き込め、ロックやエイサーの発信は、かなりの部分、アジアの市場に共感を呼ぶのではないか。

真栄城　あるものをどう生かすかに視点を向けなければ自立する地域は生まれにくい。嘉手納飛行場にも産業のシーズがある。軍の衛星から送られる天気予報を民間が利用すれば、天気予報自体がビジネスになる。軍用を民間に利用する手だてを考える方がむしろ得策だ。

東部海浜では、マイアミやハワイのように、市民の街とリゾートの街をどううまくつなぐかという構想を持つことではじめて路面電車も生きてくるかもしれない。電車の集客装置として、魅力あるポイントを街につくることも新たな課題だ。

沖縄市の魅力にはストリートもある。魅力あるものをいかにアピールしていくかが皆さんの腕の見せどころだ。今日もったとは、もっと価値を増す。古酒のような街づくりが本当の自立に向かうことになるのではないか。

創刊　時代を伝えて110年

約200人の聴衆が詰めかけた沖縄商工会議所の地域活性化シンポジウム＝15日、沖縄商工会議所ホール

幸地　初めに沖縄の経済活性化について。

小濱　人間には良いところ、悪いところがあるのと同じ。街づくりも、地域社会も同じ。街づくりも、不満を改善する方向と街の良いところを伸ばす二通りの考え方がある。沖縄は基地、雇用などさまざまな課題がある。問題の解決を図ることも大事だが、沖縄の良いところを伸ばすことももっと大事。

「自立」とは内需拡大だと思う。品質の高い県産品をつくり出していくこと。また、沖縄は年間四百八十万人の観光客が訪れる。県民の県内観光も重要だ。職場、家族旅行レベルから始めたらどうか。私たちも観光客が泊まるようなホテルに泊まるのもよい。観光による内需拡大は可能性が高い。

開　三年前からエコツーリズム関係の仕事やコンベンションの企画などをしている。エコツーリズムには十年前に出合った。沖縄の自然、歴史、文化に触れ、いろんな人から話を聞くと、沖縄の素晴らしさにワクワクする。その気持ちをみんなに伝えたい。

沖縄には素晴らしい自然、歴史、文化といった大きな資産がある。もっとみんなで発見していく。そして共有する。知恵を絞って考えて良い街づくりをしていくことができることから実践していくことで、心も体も豊かになっていくのではないか。

上原　今後十年、二十年の沖縄を考えた場合、大量消費の時代は来ないと考える。少子高齢化社会であり、人口も減少してくる。沖縄も今後十年、十五年でピークが来るのではないか。新しい振興計画のシミュレーションでも二〇一五―二〇年で人口のピークが来て、その後は減っていく。供給剰の時代になっていく。量から質への転換が求められる時代になる。

二つ目に民間主導の時代は避けられない。小泉内閣でも中央から地方へ、官から民への施策をとっている。国、地方財政とも借金を抱え、これまでのように政府・自治体に任せてばかりではいられない。税金の使い方も問同じ。繁華街だった場所が寂れてしまっている。

三つ目は変化が速いということ。街づくりも社会、基地の縮小などが挙げられている。

自立は経済だけでなく、社会的福祉や文化の向上など総合的にレベルが上がること。国際化も一方的なグローバリゼーションは逆に地域の発展の妨げになる。ローカルに、グローバルを融合していかなくてはならない。

これまでの自先のことだけでなく、抜本的な改革、新しい発想が必要だ。ブランド化して成功しているが貧困化している。課題は官需から民需への転換、高失業率の解消、産業の新規創造などがある。静脈の経済論というのは、自立論の出発点になる。新たな振計では観光・リゾート、ネットワークを絞って考えて良い街づくりをしていくことが必要だ。

今、自分たちで何ができるか、何をするのか。責任を持ってやることが求められている。一人ひとりができることから実践していくことで、心も体も豊かになっていくのではないか。

上原　今後十年、二十年の沖縄を考えた場合、大量消費の時代は来ないと考える。少子高齢化社会であり、人口も減少してくる。沖縄も今後十年、十五年でピークが来るのではないか。新しい振興計画のシミュレーションでも二〇一五―二〇年で人口のピークが来て、その後は減っていく。供給剰の時代になっていく。量から質への転換が求められる時代になる。

二つ目に民間主導の時代は避けられない。小泉内閣でも中央から地方へ、官から民への施策をとっている。国、地方財政とも借金を抱え、これまでのように政府・自治体に任せてばかりではいられない。税金の使い方も問題だ。

三つ目は変化が速いということ。街づくりも社会、基地の縮小などが挙げられている。

自立は経済だけでなく、社会的福祉や文化の向上など総合的にレベルが上がること。国際化も一方的なグローバリゼーションは逆に地域の発展の妨げになる。ローカルに、グローバルを融合していかなくてはならない。

これまでの自先のことだけでなく、抜本的な改革、新しい発想が必要だ。ブランド化して成功している。沖縄市は米軍基地への転換、高失業率の解消、産業の新規創造などがある。静脈の経済論というのは、自立論の出発点になる。新たな振計では観光・リゾート、ネットワーク・太平洋地域との交流、ネス産業を主たる産業に自然と生活環境が調和した社会、基地の縮小などが挙げられている。

これからの日本の抜本的な改革として健康、環境、安全、教育の世界一を目指すことに上にいくことが基本的な考え方にあり、キーワードにアジアの経済の視点からウェルネス産業を主たる産業に戻す、静脈として、地域活性化に取り組まないといけない時代。

・太平洋地域との交流、自然と生活環境が調和した社会、基地の縮小などが挙げられている。

これからの日本の抜本的な改革として健康、環境、安全、教育の世界一を目指すことに上にいくことが基本的な考え方にあり、キーワードにアジアの経済の視点からウェルネス産業を主たる産業に戻す、静脈として、地域活性化に取り組まないといけない時代。

工業化の後追いでは難しい。イタリアは家内工業だったファッションをネットワーク化、ITブランド化して成功した。沖縄市は米軍基地が多い。基地内大学、広大な海がある。そういったものを民間で利活用できないか。いろいろ素材はある。